

津山で鳥瞰図といえば、多くの人が歙形蕙斎の「江戸一目図」を思い浮かべることでしよう。あるいは、蕙斎が江戸時代の津山を描いた「津山景観図」が思い出されるかもしれません。いずれも貴重な資料ですが、特に「津山景観図」は、江戸時代の津山城や城下町の姿を写実的に描いた作品として、かけがえのない資料といえます。

しかし、実はもう一つ忘れてはならない作品があります。それは、昭和初期に吉田初三郎が描いた「津山市鳥瞰図」です。この中で、昭和10年ごろの津山市と、その中心にあつて威容を誇る津山城跡が、詳細に描かれています。

吉田初三郎は京都に生まれ、大正から昭和にかけて全国各地の鳥瞰図を作製した画家で、江戸時代に各地の名所絵を描いた歌川広重になぞらえて「大正の広重」と称されたといわれます。現在では、初三郎の描いた多数の鳥瞰図は、単なる観光パンフレットの域を超えた作品群として、高く評価されています。

「津山市鳥瞰図」は、姫津線全通記念産業振興大博覧会協賛会によって制作され、昭和11年2月に刊行されたものです。産業大博覧会の計画は、昭和9年に発議されたのですが、その年、岡山県全域は室戸台風によって未曾有の大洪水に見舞われ、博覧会も延期を余儀なくされました。けれども昭和10年には災害からの復興に向かう中、翌年の開催が決定されました。そして、博覧会の宣伝用として400円の予算を計上して制作されたのが「津山市鳥瞰図」でした。表面にはカラーの鳥瞰図と津山市略図・津山民謡が印刷され、裏面に

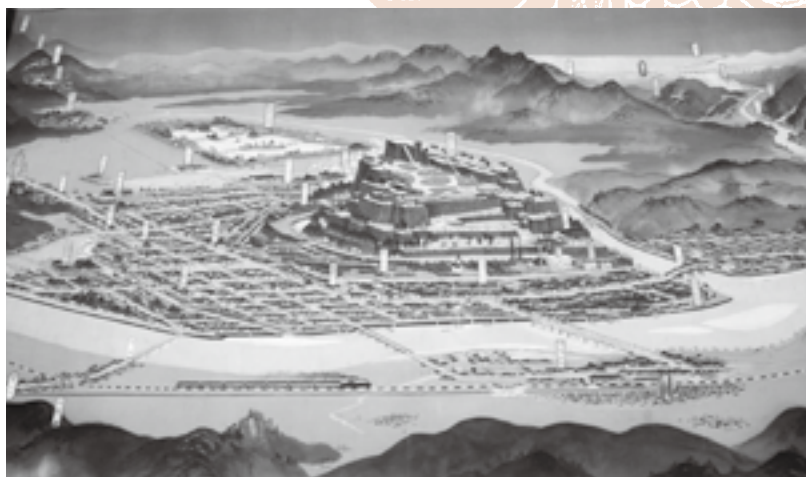
津山城百聞録

はつさぶろうの描いた津山の鳥瞰図

は津山市の概況や名勝旧跡が写真入りで紹介されています。

原画は横長で、広大な画面中央付近には、桜の咲き誇る津山城跡と津山市街地が描かれ、開通したばかりの線路には、煙を吐いて走る汽車の姿が見られます。西は勝山、東は湯郷、南は岡山までが描き込まれた大作です。

博覧会の後、原画は津山市が保管し、長く津山市役所応接室の壁に掛けられていましたが、現在は昭和の貴重な資料として、津山郷土博物館に保管されています。



▲津山市鳥瞰図の原画（一部分）

つやま 広報 2月号

平成20年 2008 640号

編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>



スケートの撮影計画を立てて臨んだのですが、人数やスピードが刻々と変化する銀盤の上。撮影開始時は不安そうに自分の足元を見つめていた子どもたちが、いつしかスイスイと…撮影はスベらないように、粘りました。(2)



今年初めての取材は勝北新春三ニマラソン。雪の中でした。そんな中でも多くの関係者が参加者のために、準備に、運営にと一生懸命でした。私も寒いなどと泣き言を言うてはいられませんね。思いを新たにした一日でした。(8)



つぶ・や・き

編集室

雪の降り積もった朝が子どもの頃から大好き。外がシンとして、音の伝わり方がいつもと違つ…「今日は雪」と感じながら目が覚めていました。最近雪が少しか降りないので、あの雪の朝の感覚を忘れてしまいました。(和)



12月中のひとの動き

人口	110,469人(前月比△78)		
男	52,702人(同△49)		
女	57,767人(同△29)		
世帯	43,647世帯(同△45)		
転入	149人	転出	222人
出生	84人	死亡	89人

(1月1日現在)

広報つやまは、環境保護のため再生紙と大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください

